

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

《特集》

医療情報を届ける

- レファレンスコーナー
- 児童コーナー わかば通信
- 岩手県内図書館紹介
- 図書館掲示板

2018.3

No.182

contents

目次

ページ

01

特集

医療情報を届ける

- ・ 県内唯一の医学図書館として（岩手医科大学附属図書館）
- ・ 岩手の未来を創り出すために地域とつながり、医療を支える
(岩手保健医療大学)
- ・ 岩手県立図書館の医療情報提供（岩手県立図書館）
- ・ 「がん情報ギフト」プロジェクトについて（国立がん研究センター）

10

レファレンスコーナー

- ・ 唱歌「荒城の月」のモデルになっている城はどこか。
- ・ 六日町にあったという盛岡市最初の郵便局が、今の住所ではどのあたりにあるか知りたい。

12

児童コーナー

- ・ わかば通信
冬のこわ～い おはなし会へ いらっしやい

13

岩手県内図書館紹介

- ・ 滝沢市立湖山図書館

14

図書館掲示板

- ・ 第58回 岩手の読書週間
読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者
- ・ 編集後記



特集：医療情報を届ける

ほとんどの図書館では、図書館条例などで医療に関するレファレンスに制限を設けていることと思います。しかし、利用者の関心が高い分野も「医療・健康」です。所蔵資料などでできる限りの情報は提供しているものの、もっと専門的な情報を提供できたら、と感じたことはありませんか？

今回は岩手医科大学附属図書館および今年度開学したての岩手保健医療大学のご協力を得て特集を組みました。また、国立がん研究センターからは「がん情報ギフト」プロジェクトについてご紹介いただいています。医療情報へのアクセスに繋がるヒントになれば幸いです。



<岩手医科大学附属図書館>

県内唯一の医学図書館として

岩手医科大学附属図書館は、盛岡市内丸にある本館と紫波郡矢巾町の分館で構成されています。本学は2017年4月に創立120周年を迎えました。1897年の創立時は「岩手図書館」の名称で医学講習所に閲覧室等が配備された記録があります。現在の本館の建物は1972年に竣工されたもので、分館は1965年に本町キャンパスに設置されましたが、2007年に矢巾キャンパスができた時に食堂棟2階に移設されました。約28万冊ある蔵書の構成は、図書137,461冊、製本雑誌150,145冊のほぼ半々となっており、雑誌の種類数は8,245種あります。その他、電子ジャーナル4,106種、電子ブック7,888点、データベース11点を整備しています。(2017年4月1日現在)

本館は医学関連学術書のみを収蔵しており、主な利用者は病院職員や医学部・歯学部の学生、大学院生等ですが、分館には教養書も多く収蔵しています。学外の方の利用は、本館は医療従事者、他大学教職員・学生、研究者に限り、年度毎に登録・更新することで利用可能となっています。それ以外の一般市民の方は、分館（貸出は医学、自然科学系以外可）の他、本館2階の医療情報コーナーを利用いただけます。

医療情報コーナーについて

医療情報コーナーは、2006年に患者さんやご家族、一般市民の方への医療・健康情報提供のために設置されました。一般の方向けの病気に関する図書や雑誌を診療科別に配架しており、闘病記などの読み物などもあります。どなたでもご利用いただけますが、全て閲覧のみで貸出はできません。お探しの資料が見つからない時は館員がお手伝いしますが、ご利用の際は

以下についてご理解ください。

- ・ 図書館で入手できる資料・情報の提供のみ行ないます
- ・ 特定の健康法・治療法・医師・病院・薬を勧めるものではありません
- ・ 治療法や薬は日々進歩しています。ここにある情報がすべてではありません
- ・ 図書館員は病状の診断・治療の判断等にはできません。治療等の医療に関するご相談は、主治医や病院スタッフにお申し出ください

他にも、持ち帰りできるパンフレットや、待合室・病室に持ち出し可能な小説や絵本を用意しています。また、お近くの公共図書館を通じて、複写申込や調査依頼を受け付けております。



「医療情報コーナー」の様子

医療・健康情報サービスの展開

最近では公共図書館の医療・健康情報サービスが盛んになり、県内でも少しずつ取り組みが見られるようになりました。2017年より岩手県公共・大学・専門図書館等連絡協議会でミニ研修「やってみよう！図書館での医療・健康情報サービス」の時間を設けていただき、これまでに「選書」と「レファレンス」を取り上げました。今回は「医療・健康情報の評価」のテーマで実施し、一区切りとなります。難しいと敬遠されがちな医療・健康情報の取り扱いについて、少しでも悩みや不安を解消できれば幸いです。

2017年10月には、県内9つの図書館の連携による、医療・健康に関する企画展示を初めて実施しました。第1回は、岩手県の高校生に肥満が多くなっていることから、「STOP！肥満症」のタイトルで企画しました。各館の特色を活かした展示は、利用者の方々にも好評だったようです。地域の統計を使った資料を作成したり、行政サービスと連携したり、その場で身長や体重を測定して自分の肥満指数を計算できたりと、各館の工夫を凝らした取り組みが刺激にもなり、今後の展開も楽しみです。



STOP！肥満症 @医療情報コーナー

2018年は年2回、6月に「口腔ケア」、11月に「介護」を取り上げる予定です。いずれも身近な話題として関心の強いテーマであり、これを機に、利用者の方々に図書館で医療・健康情

報を得ることができるという認識を持っていただくことができればと思います。行政や医療機関と連携することにより、誰もが気軽に立ち寄れる専門情報への窓口として、図書館がより幅広く岩手の健康づくりを支えることができるのではないかと期待しています。

地域に開かれた図書館を目指して

他にも、本学では年に4回、図書館に親しみながら利用していただくためのイベント「Library+（ライブラリープラス）」を開催しており、その内の2-3回は学内だけでなく、どなたでもご参加いただけるようにしています。過去にはエコバックや小箱づくり等の工作や、本学の多様な職種の中からいくつかの専門職についての講演も実施しました。



「Library+」の様子

ホームページやメールマガジン、ツイッター等での情報発信も行っています。分館では、貴重書の紹介をする特別展示、それぞれの時期に合わせて資料を紹介する企画展示もご覧いただけます。また、矢巾キャンパスで毎年開催される「矢巾町セカンドアカデミー」でも、図書館の使い方や情報の探し方についての講習を実施しています。

県内唯一の医学図書館として、地域へも開かれた図書館を目指しておりますので、どうぞお気軽にご相談、お問合せください。

(岩手医科大学附属図書館 川崎かおる)



＜岩手保健医療大学＞

岩手の未来を創り出すために 地域とつながり、医療を支える

初めまして、岩手保健医療大学です！

本学は平成 29 年 4 月に開学した新設の単科大学です。看護師・保健師・養護教諭(二種)の資格取得を目指すことができ、医療現場で活躍できる人材育成に努めています。1 学年につき定員 80 名という少人数制の特徴を活かした講義やゼミナールを行っており、学生・教員それぞれの距離が身近に感じられることで、理解度が深まります。アットホームな雰囲気を感じることができるのも少人数制の良さです。また、盛岡駅西口から徒歩 5 分の好立地にあるため、アクセス抜群なところも魅力の一つです。



盛岡駅西口から徒歩 5 分
(岩手県立図書館から徒歩 1~2 分)程の距離にあります。

看護・医療系の資料が充実

本学図書館では、看護・医療の専門書を中心に約 5,800 冊の図書や雑誌を所蔵しています。冊子体の資料に限らず視聴覚資料も所蔵していますので、映像で実際の動作を見て学習することも可能です。医学は日進月歩であり、日々進展・発展し続けている分野でもあるため、今後も引き続き図書館資料を充実させていきます。

多くの公共図書館は「日本十進分類法(NDC)」

を用いてそれぞれの分野ごとに本を並べていますが、本学図書館では 2 種類の分類法を併用しています。看護専門書は「日本看護協会看護学図書分類(N分類)」(※)を、基礎医学や一般教養などの図書は「日本十進分類法(NDC)」で分類し配架しています。目的の図書だけでなく、それに関連する図書を容易に探すことができる使いやすい図書館を目指しています。

地域の皆さまも利用してみませんか

本学図書館では、地域貢献の一環として一般開放に向けて準備を進めています。平成 30 年度中には、医療に携わる方だけでなく、地域にお住まいの方にもご利用いただけるようになる予定です。詳しい利用案内は以下の通りですが、これらの利用案内は全て予定となっております。変更となる場合もございますので、予めご了承ください。また、本学図書館に所蔵されている資料を用いて調査・研究をする方を対象としておりますので、インターネットおよび閲覧席のみのご利用はご遠慮ください。

■開館時間

9:00~17:00

■休館日

- ・土曜日、日曜日、祝日、年末年始の休業期間中
 - ・開学記念日(5月1日)
 - ・図書等整理日(毎月末日。土日祝の場合は前平日)
- ※詳細は本学 HP の図書館開館カレンダー参照

■貸出

- ・利用者カードを作成する必要があります。(作成に際し現住所が確認できる身分証明書の提示をお願いします)
- ・貸出冊数: 5 冊 / 貸出期間: 2 週間(図書のみ。雑誌や視聴覚資料は貸出できません)
- ・貸出中の資料は予約ができます。カウンターもしくはお電話にてご相談ください。

■延長

- ・他の利用者から予約の申込みがない場合、1 回に限り貸出期間を 2 週間延長できます。(貸出期間内にカウンターもしくはお電話にてお手続きが必要です)

■複写

- ・著作権法の範囲内で図書館内のコイン式コピー機で複写することができます。

なお、下記のサービスは既に利用可能です。最寄りの図書館にご相談いただき、ご活用ください。

■相互貸借・文献複写のご依頼

・遠方にお住まいの方でも本学図書館の資料をご利用いただけます。公共図書館を通して依頼することができますので、ご希望の方はお近くの公共図書館へご相談ください。

【相互貸借】

※相互貸借は最大 5 冊まで貸出可能。貸出期間は 1 カ月となっております。予約が無ければ、1 回に限り 2 週間の延長が可能です。

※ILL 料金相殺サービス非参加機関は着払いでの対応となります。

【文献複写】

※ILL 料金相殺サービス非参加機関は、文献と一緒に請求書を同封しますので、到着後 2 週間以内に指定の口座にお振込みいただく形で対応しております。

■所蔵資料の検索

CiNii Books(<https://ci.nii.ac.jp/books/>) で図書館 ID に「FA027576」を入れることで、本学図書館の所蔵資料を検索することができます。



正面玄関から入ってすぐ左手に図書館があります。

地域の皆さまと共に学び、 共に成長するために

本学では研究成果を広く社会へ還元することを目的とした公開講座を行っています。医療従事者の研修の場として、一般市民の方の生涯学習の場として、どなたでもお気軽に参加いただけます。

また、ご希望の講義内容やテーマに応じて、各専門の教員が皆さまのところへ伺う出前講義を実施しています。一例として、看護に興味

を持つ高校生を対象にした模擬授業を行っており、大学で行われている講義を実際に体験することができます。



2017年10月に行われた第2回公開講座の様子

地域と共に歩む大学づくりを目指して

本学では保健医療福祉に貢献できる人材を育成し、岩手県やその周辺地域で活躍できるよう努めています。地域に密着した大学として、送り出した学生が地域の病院や、実習先の施設などに就職するということは、大学と医療機関の連携を密にするとともに、継続的な教育を実施する基盤ともなります。そして、それは地域医療の質を高めることに繋がっていきます。図書館としては所蔵資料の提供、すなわち“知の伝達”を行っていくことが地域貢献に繋がるものだと思っています。“伝達した知”から“新たな知を創出”するためのお手伝いできれば幸いです。

ワンフロアの小さな図書館ですが、利用者が真に求めている知や情報を的確に提供できるよう心がけています。小説や一般教養系の資料は公共図書館を、看護・医療系の資料は本学図書館を、というようにそれぞれの特徴に応じて使い分け、調査・研究等に役立ててください。微力ながら地域の医療情報を提供する拠点として役割を果たしていきたいと思っております。

(岩手保健医療大学図書館 木村ちひろ)

※ 日本看護協会看護学図書分類表

<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/librarian/pdf/bunruihyou.pdf>



<岩手県立図書館>

岩手県立図書館の医療情報提供

日々生活していると、誰もが一度は健康に関する問題を抱えることがあると思います。ご自身やご家族の体調不良、病気、あるいは医療費控除などについて調べるため、図書館を利用される方もいらっしゃることでしょう。病気や薬など医療に関して適切な情報を入手することは、問題を解決するための大きな力となります。しかし、図書館では資料購入費や収集方針等の制約により、必ずしも情報ニーズに応える資料を十分に揃えられるとは限りません。

当館では、コーナーの設置や専門機関との連携によりこの点を補えるよう取り組んでいます。以下、その内容を幾つかご紹介いたします。

情報提供の環境づくり

■ 健康情報コーナー

図書館には様々な方が来館し、その中には情報検索がそれほど得意ではない方、パソコン等の機器を上手に使いこなせない方もいます。また、日本十進分類法を使って分類・配架した場合、例えば「健康」に関するテーマを設定したとすると4類（医学）、5類（家庭衛生）、9類（手記）など、資料が分散してしまうケースも出てきます。このため、資料展示やコーナーの設置という形で、あるテーマについて必要な情報を一カ所で得られるようまとめておくなどの工夫が必要になります。そのような背景もあって、当館では平成26年に「暮らしコーナー」を設置しました。

このコーナーでは書架を「生活」「健康」「家庭」の3つのカテゴリーに分け、各カテゴリーの特徴・内容に合わせて資料を配架しています。生活のカテゴリーではシニア、家族、お金、生活問題など身近な課題の資料を、健康のカテゴリ

ーでは医学や健康に関する概要や基本的なことがわかりやすく書かれている資料を並べています。家庭のカテゴリーでは手芸や料理、育児等に関する資料を並べ、日々の暮らしや子育てを応援しています。



「暮らしコーナー」全景

また、所蔵資料以外に他機関等から取り寄せた冊子なども設置しています。特に健康の棚では「健康情報コーナー」として健康に関するチラシ、リーフレットを設置しており、現在はがん関連のものを中心に置いています。あわせて、関連情報を探す手助けとなるよう、当館発行の医療情報をテーマとしたパスファインダー（調べ案内）も並べています。



健康情報コーナー

■ がん情報ギフト

先ごろ、国立がん研究センターの「がん情報ギフト」プロジェクトより、同センターが発行する蔵書用および配布用のがん関連冊子一式

を寄贈していただきました。県内では当館が初めての設置場所となります（※「がん情報ギフト」の詳細は今号の特集記事[p.8]をご覧ください）。蔵書用冊子の中には、当館で単独の資料としては所蔵していない「聴神経鞘腫（ちょうしんけいしょうしゅ）」や「腎盂尿管がん」などの資料もあります。今や国民の二人に一人はかかるとされているがんですが、このような個別のがんに特化した情報は、専門機関だからこそ提供できるものだと感じます。

このプロジェクトはインターネットを使えない方、近くにがん診療拠点病院がない方でも身近な場所で適切な情報を得られるようにと、図書館にがん情報を届ける試みです。この点を踏まえ、当館では蔵書用冊子 57 種を全て貸出可能としました。今年3月に設置したばかりですが、がん情報を必要とする方にとって有益な情報源となる事を願っています。



がん情報ギフト

■連携展示の実施

岩手医科大学附属図書館からの呼びかけにより、平成29年9月末から10月末にかけて連携展示「STOP！肥満症」を開催しました。10月が日本肥満予防医学会の「STOP！肥満症推進月間」であることにちなみ、県内9つの図書館が同時期・同テーマで展示を行ったものです。展示ポスターには参加館名が記載されており、所

在地や蔵書の違いがあっても“図書館という場で医療情報を得られる”のだということを知っていただく良い機会となりました。

また、同じく岩手医科大学附属図書館からの協力を得て、今年2月から展示「図書館で見つける！医療情報」を実施し、図書館で得られる医療情報について幅広く紹介しています。展示では大きく分けて4つの情報源を紹介しています。病気や薬について調べるための図書資料、オンラインデータベース「医中誌」などの電子資料、専門機関から提供を受けたリーフレット、そして、医学分野に特化した岩手医科大学附属図書館の紹介です。岩手医科大学附属図書館の紹介では特に「医療情報コーナー」を取り上げ、利用案内のリーフレットやパネルを設置しました。必要に応じて複数の情報源を使い分けていただけるよう提示することもまた、医療情報提供の環境づくりの一つだという意識で取り組んでいます。



資料展示「図書館で見つける！医療情報」

関係機関とのつながり

■がん相談支援センター

医療に関して図書館ができることは、利用者が求めている情報を図書館資料や外部データベースなどから探し出し、貸出や複写などの方法により提供するところまでです。しかし、これだけでは利用者のニーズが十分に満たされ

ないこともあるでしょう。この場合、必要に応じて他の専門機関などをご案内するレフェラルサービスが有効です。

前述の「がん情報ギフト」を設置することで、そのような案内が必要になる場面が出てくるとも想定されたため、最寄りのがん診療拠点病院である岩手医科大学附属病院に設置されている「がん患者支援情報室（がん相談支援センター）」に伺い、今後の連携・協力に向けての相談をさせていただきました。がん診療拠点病院は、質の高いがん医療を提供することができるよう厚生労働省が指定した病院で、専門的ながん医療を提供するだけでなく、がん患者に対する相談支援や情報提供なども行っています。岩手県内では 10 カ所が指定されており、それぞれががん相談支援センターの窓口を持っています。

他の専門機関等ではどのような情報やサービスを提供しているのかを知り、関係を構築し、ご案内をすることは、医療情報の環境整備の一つだと思います。現在はがんに関する機関との連携ですが、今後も可能な限りさまざまな展開をしてきたいと考えています。

■他部署・他機関等とのつながり

「がん情報ギフト」の設置にあたっては、上記以外にも岩手県保健福祉部とのつながりを持ちました。保健福祉部は医療政策の立案や健康推進などの事業を展開する部署であり、県のウェブサイト内でもがんに関する情報を提供しています。また、「いわてのがん療養サポートブック」を発行し、ウェブサイトでの公開や冊子での配布を行っています。

はじめは担当者に図書館の取り組みを知ってもらおうと連絡したのですが、話をするうちに、保健福祉部のウェブサイト内に、がん情報を得る場合は図書館も活用してくださいという案内を掲載していただけることになりました。

た。関係機関とつながることで、図書館の利用者層とは異なる方に対しても、図書館が関連情報を提供しているのだということアピールできる機会が生まれるのだと感じました。

このほかにも、4月の「世界自閉症啓発デー」や9月の「健康増進普及月間」、また「岩手県自殺防止月間」や「乳がん月間」など、折に触れ自治体内の関連部署や専門機関、団体等からの協力を得て、図書館資料以外の情報も提供するようにしています。

おわりに

健康や医療に関する問題は誰にとっても身近であり、それらに関わる情報は命を守ることにつながる大切なものです。地域の中で情報を得られる人とそうでない人の差があってはならないと感じます。だからこそ、誰もが利用できる図書館で、誰もが情報を得やすいよう環境を整え、さらには「図書館に行けば必要な情報を得られる」ことをきちんと認知してもらうことが大切なのだと思います。

図書館が、地域や個人が抱える課題を解決するために様々な情報を提供している施設であるという認識は、すべての地域住民に浸透しているとは言えません。必要な方に必要な情報をしっかりと届けられるよう、これからも様々な工夫に努めていきたいと考えています。

（岩手県立図書館 安倍和恵・高橋恵子）

【参考】

- ・がん相談支援センター（がん患者支援・情報室）
<http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/kakushitsu/soudan.html>
- ・がん診療連携拠点病院（岩手県 HP）
<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/gantaisaku/024131.html>



＜国立がん研究センター＞

「がん情報ギフト」プロジェクト について

はじめに

がんは 1981 年以降、わが国の死因の第一位であり、がん患者や家族からの声を受けて、がん対策基本法（2006 年）やがん対策推進基本計画（2007 年）が制定され、国民に向けた情報発信の充実のための意識的な努力が行われています。がん情報の提供については、国立がん研究センターがん対策情報センターが運営するインターネット「がん情報サービス」および各種資料と、がん医療の中核を担うために指定されている全国約 400 のがん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」がその担い手として取り組んできました。

がん相談支援センターは、情報弱者やインターネットが使えない人、病院にかかっている患者や家族らも含めてだれでも利用できる、がんについての様々な相談を無料で受け付ける窓口となっています。しかし、このがん診療連携拠点病院は、専門的ながん医療の提供や支援の拠点となる一定規模以上の病院であることから、地方においても県庁所在地等、比較的人口が密集した地域に集中しがちであり、地域でのがんの情報や相談窓口の空白が生じています。

一方、医療の進歩による治療の選択肢の増加や患者の意思決定への関与の度合いの増加により、患者自身が健康や医療に関する情報入手し、理解し、活用する力の向上が求められるようになってきました。昨今、地域住民の課題解決を支援する情報拠点としての役割を強め、地域のすべての住民に開かれた情報拠点である公共図書館は、小さな市町村にも設置されており、信頼できるがん情報を全ての国民に届けていくための重要な拠点となりえます。この公共

図書館を介したがん情報の普及を目指すのが今回のプロジェクトです。



高山市図書館（岐阜県）

届けるを贈る 届けるを支える 「がん情報ギフト」プロジェクト概要

がん対策情報センターでは、科学的根拠に基づくがん情報を、ウェブサイト「がん情報サービス」で提供すると共に、冊子やチラシの紙媒体でも情報普及を行ってきました。

2017 年 7 月 31 日に開始した、「届けるを贈る 届けるを支える がん情報ギフト」プロジェクト（詳細はウェブサイト参照）は、全国の皆様から寄付を募り、寄付された方が指定した都道府県への寄付金が 30,000 円集まるごとに指定都道府県の公共図書館や公民館 1 館にがん対策情報センターが発行するがんに関する資料のセットを寄贈する取り組みです。寄付者は希望する都道府県を指定して寄付を行うことができます。居住地や出身地など、愛着を感じる地域を支援していただくことで、寄付者の皆さまにもこの事業を身近に感じ、見守っていただくことを意図しています。

各図書館には、蔵書用冊子 58 種、配布用冊子 8 種、ちらし 1 種をバインダーや配架用ラックとセットにしたものを寄贈します。各都道府県内における寄贈先については、都道府県立図書館経由で、当該県内の市町村立図書館に本プロ

ジェクトを紹介していただき、受入図書館となることを希望された図書館から順次送付することを予定しています。

また、これらの資料だけでは患者さんや家族等の様々な悩みやニーズには応えられないことも多いため、この取り組みの中では最寄りのがん相談支援センターとつながり、必要に応じて図書館から相談者が紹介される連携を構築していただけるような働きかけ、仲介も併せて行っています。



公共図書館での先進事例と今後の展開

これまで医療の専門性の高さや、行政上の管轄の違いもあり、医療機関と公共図書館との連携は自然発生的には生まれにくい状況でした。しかし、“地域”をベースとした両機関の相互補完的な連携を促すことで、がんの情報を必要とする全ての人に向けた情報発信を進めることができると考えられます。

本プロジェクトが発足する以前から、すでに複数の公共図書館（東北では大崎市図書館、青森県立図書館等）でがん対策情報センターが発行する冊子等を活用していただいています。またいくつかの図書館では、地域のがん相談支援センターと連携し、協働での講演会等のイベント開催や、地域の医療情報を掲載したチラシを作成するなど、より広い連携を築いている地域

もあります。これまでの試行事業については国立がん研究センターがん対策情報センター公式ホームページ内「がん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト」をご参照ください。



大崎市図書館（宮城県）

図書館の専門性と、医療機関の専門性が交差する情報コーナーが各地に広がることで、「誰でもどこでも必要ながん情報が届く社会」の実現を目指していきたいと考えており、関係諸機関の皆さまのご協力をお願いする次第です。

（国立がん研究センター がん対策情報センター
がん情報ギフトプロジェクト事務局）

【参考】

- ・国立がん研究センター「がん情報サービス」
<http://ganjoho.jp>
- ・届けるを贈る 届けるを支える『がん情報ギフト』プロジェクト
http://www.ncc.go.jp/jp/information/donation/donation_ganjoho.html
- ・がん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト
<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/project/pub-pt-lib/index.html>
- ・がん情報冊子好評 砺波図書館に新コーナー 57種類 【富山新聞 2018.1.18】
http://www.toyama.hokkoku.co.jp/subpage/TO2_0180118511.htm

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q. 唱歌「荒城の月」のモデルになっている城はどこか。

【回答】

滝廉太郎作曲、土井晩翠作詞の「荒城の月」は、1901年（明治34）に東京音楽学校（現・東京芸術大学）編纂『中学唱歌』の一曲として発表されました。荒れた城跡に象徴される人の世の無常と、月や自然の不変性との対比が、格調高い言葉の調べによって綴られた歌です。

滝廉太郎は父親の仕事の関係で、少年時代を大分で過ごしています。荒涼とした石垣の残る大分県竹田市の岡城跡から、曲の着想を得たといわれています。一方、「春高樓の花の宴」で始まる歌詞は、土井晩翠が旧制二高在学中に訪れた福島県会津若松の鶴ヶ城の荒れ果てた様子や、故郷・仙台の青葉城に残る石垣のイメージなどをもとに作詞されたと伝わっています。なお、二人にゆかりの岡城跡、鶴ヶ城跡、青葉城跡、そして二戸市の九戸城跡には「荒城の月」の歌碑があります。

なお、九戸城跡に歌碑が建立された経緯については『九戸政実ゆかりの地を巡る』（九戸政実プロジェクト突撃隊 2015.2 [K/289.1/7/]) に記述があります。1939年（昭和14）10月、晩翠は講演のため旧制福岡中学を訪れ、九戸城跡に足を運びました（昭和19年に林檎狩りに訪れたという説もあり）。そこで九戸城の悲劇を聞き、宿で自ら筆をとり「荒城の月」の書を残したとのこと。碑は、その書を刻んで建立されました。思わぬところで郷土に結びつき、印象に残る事例でした。

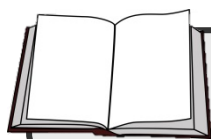
キーワード：荒城の月 唱歌 滝廉太郎 土井晩翠

【調査プロセス】

1. 「荒城の月」、「滝廉太郎」、「土井晩翠」に関する資料を確認。モデルの城が複数あるとの記述を確認。
2. それぞれの城の歴史や外観等については、城郭関係の資料を紹介。

【参考文献】（ ）内は当館請求記号

1. 『日本童謡事典』東京堂出版 2005年（R/767.7/ニホ）
2. 『童謡・唱歌・叙情歌名曲歌碑50選』鹿島岳水 著 文芸社 2005.10（767.7/カシ）
3. 『荒城の月』山田野理夫 著 恒文社 1987.5（910.28/ツ3/6）
4. 『土井晩翠』土井晩翠顕彰会 編 仙台文学館 2004.9（910.268/ドイ）



Q. 六日町にあったという盛岡市最初の郵便局が、今の住所ではどのあたりにあたるか知りたい。

【回答】

六日町は現在の盛岡市肴町付近にあたります。盛岡の郵便局発祥の地にも関わらず何も跡が残っていないことを残念に感じたという地元の方からのご質問でした。

まず盛岡の郵便局史を調べてみたところ、『図説盛岡四百年 下 I』『盛岡明治大正昭和「事始め百話」』に、盛岡最初の郵便局が六日町の奥州街道筋にあった旅籠屋の主人・斎藤定興宅に置かれたこと、斎藤家は江戸時代には参勤御用の本陣「御仮屋（御仮宿）」の管理人であったことなどが書かれていました。斎藤定興は初代局長も務めたようです。しかし、盛岡郵便局の記録にも初代郵便局の番地等までは残っておらず、具体的な住所は調べきれませんでした。そこで、視点を変えて、郵便局ではなく六日町の御仮屋の場所から調べてみることにしました。

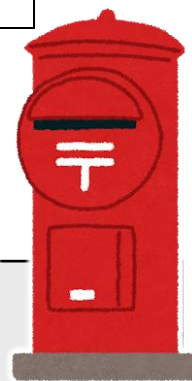
御仮屋が奥州街道筋にあったということから、まずは『増補行程記』を確認。盛岡藩士・清水秋全が藩主の命を受けて江戸から盛岡までの奥州街道を描いたものです。原本はもりおか歴史文化館所蔵ですが、複製したものが東洋書院から刊行されており、調査ではこちらを用いました。六日町の御仮屋は図 377 に載っています。試しに現在の地図と照らし合わせてみましたが、さすがにこれでは分かるようではありませんでした。もう少し詳しい資料はないかと探してみたところ、『奥羽史談 第 119・120 号』に掲載された、「文政年中「八戸藩御用 盛岡城下御仮屋（御本陣）図文書」考」（吉田義昭）という記事が見つかりました。平成 20 年に個人所蔵史料中から発見された六日町所在御仮屋関係史料を調査したもののようです。御仮屋の所在地について、“盛岡市肴町二丁目三〇～三三～同下ノ橋町八～一〇地内”としており、現在の地図に該当の場所を書き込んだものも掲載されていました。

この住所が具体的にどのあたりか調べるため、実際に住宅地図で確認してみました。肴町には丁目がないため、肴町 2 丁目は肴町 2 番と推定、『盛岡明治大正昭和「事始め百話」』でも肴町 2 番地内としています。なお、記載されていた住所では下ノ橋の街区符号（番）が抜けていますが、住宅地図で確認したところ肴町 2 番 30～33 号と隣接していたのは下ノ橋町 2 番 8～10 号でした。以上から、盛岡市下ノ橋町 2 番 9～10 号から肴町 2 番 30～31 号付近ではないかと推測し、『増補行程記』や『奥羽史談 第 119・120 号』掲載の地図とあわせて、ご報告しました。

キーワード：郵便局 郵便役所 六日町 斎藤定興 奥州街道 御仮屋

〔調査プロセス〕

1. 盛岡の郵便局に関する資料を調査
2. 六日町の御仮屋の場所を調査
3. 2 で出てきた住所を住宅地図で確認



【参考文献】（ ）内は当館請求記号

1. 『図説盛岡四百年 下 I』
吉田義昭・及川和哉 || 共編著 郷土文化研究会 1991 年 (K/211/ヨ1/4-2)
2. 『盛岡明治大正昭和「事始め百話」』吉田義昭 || 著 郷土文化研究会 1995 年 (K/211/ヨシ)
3. 『開局百年のあゆみ』盛岡郵便局 1972 年 (K/693.2/モリ)
4. 『増補行程記 奥州道中』清水秋全 || 画 細井計 || 編 東洋書院 1999 年 (K/290.9/ゾウ/1)
5. 『奥羽史談 第 119・120 号』奥羽史談会 2009 年 (KS20/オ2)
p.36～38「文政年中「八戸藩御用 盛岡城下御仮屋（御本陣）図文書」考」（吉田義昭）
6. 『ゼンリン住宅地図岩手県盛岡市 1 南部 2017』ゼンリン 2017 年 (K/290.5/ニ 2/1-2-2017)

※このレファレンスの詳細は「レファレンス協同データベース」で公開しています。是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」 <http://crd.ndl.go.jp/public/>



児童わかば通信



冬のこわ〜い おはなし会へ いらっしやい

今年度は夏ではなく寒い季節にこわいおはなし会を開催しました。

冬休みに入る少し前の12月16日(土)の午後、室内に開始を知らせる鐘の音が響きます。ちゃんちゃんこを着た語り部が子ども達の前にあらわれ、むかし話を中心にこわ〜いおはなしがはじまります。薄暗く静かな部屋で話に耳を傾ける子ども達。なかには、となりの子にからだをくっつけてお話を聴く子も…。悪さをするおばけも登場しましたが、最後はおはらいの呪文と共に部屋も明るくなりました。子ども達にお守りをプレゼントし、おはなし会も無事終了。



冬の児童コーナーに鳥居が出現！
勇気のある参加者が
そくそくと集まってきます



鳥居をくぐるとそこは神社
ここがおはなし会の会場です
ちらちらと雪も降っています

さあ、ここからは
お母さんやお父さんとは
離れて座りましょう…



カラン カラン…
鐘の音と語り部たちの「通りゃんせ」で
参加者をこわい世界へと誘います



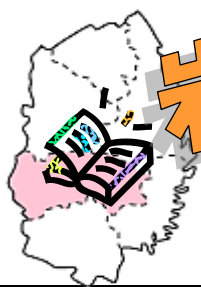
おまじないを
となえれば
おばけは退散！



来てくれたお友だちには
犬のおまもりをプレゼントしました

プログラム

- ① う た 「通りゃんせ」『こどものあそびうた・わらべうた絵本 108 曲』より
- ② 語 り 「もう半分」『怖いぞ！古典怪談傑作選 6』川村 たかし // 監修, 教育画劇
- ③ 絵 本 「ざしきわらし」柳田 国男 // 原作, 京極 夏彦 // 文, 町田 尚子 // 絵, 汐文社
- ④ 語 り 「牛方とやまんば」『おはなしのろうそく 8』より 東京子ども図書館 // 編, 東京子ども図書館
- ⑤ 絵 本 「こんたのおつかい」田中 友佳子 // 作, 絵徳間書店
- ⑥ 語 り 「神かくしの森」『神かくしレストラン』岡野 久美子 // 作, いてう くみこ // 絵, 童心社
- ⑦ 絵 本 「くわずにようぼう」稲田 和子 // 再話, 赤羽 未吉 // 画, 福音館書店
- ⑧ おはらい 「九字切り」『おばけめぐり』より 瀬川 昌男 // 原作, スズキ コージ // 絵 南谷 佳世 // 文 金の星社



岩手県内図書館紹介

岩手県内各地の図書館を紹介いたします！



図書館名		滝沢市立湖山図書館	
所在地		〒020-0665 岩手県滝沢市下鶴飼 1 番地 15 ビッグルーフ滝沢 1 F TEL 019-687-2222 FAX 019-699-1988	
施設の概況と利用状況	開館	平成 28 年 12 月 1 日	
	延べ床面積	6,356 m ² (うち図書館 843 m ²)	
	構造	鉄筋コンクリート造 2 階建	
	蔵書数	89,303 冊 (平成 30 年 2 月末現在)	
	登録者数	19,404 人 (平成 30 年 2 月末現在)	
	利用者数	43,508 人 (平成 30 年 2 月末現在)	
図書館の特徴		<p>滝沢市役所向かい、市民交流の拠点として建設された複合型施設「ビッグルーフ滝沢」1 階に移転開館。施設内には湖山図書館のほか、大ホールや会議室、キッチンスタジオ、観光案内や産地直売、レストランやカフェコーナー、キッズルーム等がある。駐車場は約 400 台分と広く、車での来館が容易となっている。</p> <p>図書館内は、大きな窓の開放感のあるデザインとなっており、チャグチャグ馬コをモチーフとしたサインが書架を飾っている。閲覧席 46 席、検索性 PC 2 台、持込 PC 席 8 席、読み聞かせができる児童コーナーがあり、大活字本や大型絵本が充実している。2 階には学習コーナーがあり、自主学習やビジネス等に利用されている。</p>	
主な事業など		<ul style="list-style-type: none"> ○えほんの部屋 (毎月第 2 土曜日・児童コーナー) ボランティア四季のみなさんによる絵本の読み聞かせ ○季節のおはなし会 (年 2 回 春・秋の読書週間に開催) 絵本の読み聞かせのほか、簡単な工作なども実施 ○ミニシアター (毎月第 3 土曜日・幼児～小学生) ○夏休み・冬休みイベント こども映画会、こども図書館員、工作ワークショップ、自由研究応援展示など ○その他、ビッグルーフで開催される各種イベントに連動した企画展示など随時実施 	



図書館掲示板

第58回 岩手の読書週間

読書推進標語・手づくり絵本入賞者、読書推進運動功績者

岩手の読書週間は、2月1日～14日までの“春を待つ、雪解け前の静けさの中で、本に親しもう”というスローガンのもと、岩手県独自の読書週間として昭和35年に設定されました。この期間中は読書週間を全県的に展開し、読書普及活動をおこなっています。

読書週間期間中の主催行事として、平成29年度「岩手県読書をすすめるつどい」が2月10日（土）にアイーナで開催され、読書推進標語と手づくり絵本の入賞者や読書推進運動功績者の表彰が行われました。読書推進標語の応募点数は1,157点、手づくり絵本は89点の応募があり、読書推進運動功績者としては2団体が表彰されました。

手づくり絵本の応募作品は2月2日～2月11日まで県立図書館で開催した「第38回手づくり絵本展」で展示した後、現在、一部作品を除き県内の図書館等で巡回展示が行われています。

最優秀賞、優秀賞は次の方々です。（敬称略）

1 読書推進標語入賞者

最優秀賞 『まよう道 出合った本が せなかおす』
及川 葉月（奥州市立田原小学校5年）

優秀賞 『あちこちで 広がる広がる 本友の輪』
佐藤 光（奥州市立前沢小学校5年）
『本の中 違う私を 生きてみる』
田中 花歩（紫波町立紫波第一中学校3年）

2 手づくり絵本入賞者

<子どもの部>

最優秀賞 「くまのベック」
佐藤 翼（山田町立船越小学校6年）

優秀賞 「金のさむらいと銀のきし」
長谷川 友信（北上市立黒沢尻西小学校3年）

「くじおくとたこぼうずくん」
野場 柚希（久慈市立久慈湊小学校2年）

「ぱんだときりん」
道又 咲空（山田町立轟木小学校1年）



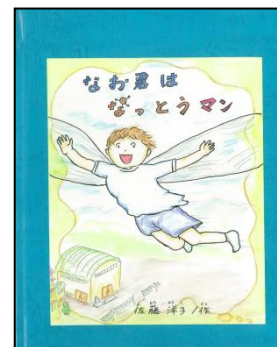
<一般の部>

最優秀賞 「なお君はなっとうマン」
佐藤 洋子（二戸市）

優秀賞 「ともだち」
岩渕 紀栄子（一関市）

「はるちゃんあそびましょ」
三浦 郁子（矢巾町）

「ほえ〜るくんのせなか」
藤原 真保子・伊藤 友美・中島 愛里（山田町）



<わかばの部>

最優秀賞 該当なし

優秀賞 「おひめさまとくじらさん」
長谷川 野ノ花・長谷川 亜希子（北上市）

「すず6さい」
菊池 すず・菊池 真輝（釜石市）



3 読書推進運動功績者

■十二支会（北上市） 代表 菅原 洋子

昭和 63 年に北上市立中央図書館主催で開催された「読み聞かせ講座」受講生により結成。以降、『読み聞かせ』を通して本を読むよこび、楽しさの環境づくりに努めること。それが子ども達の生きる力となる。』という思いで活動している。

図書館を会場に毎月定期おはなし会を開催し、絵本読み聞かせ・紙芝居・エプロンシアター・手遊び等を上演するほか、平成 29 年度からは各地区の公民館等で開催されているふれあいデイサービスにおいて高齢者向けのお話を上演するなど、読書活動推進に多大な貢献をしている。

■図書館ボランティアグループ「くれよん」（釜石市） 代表 伊藤晶子

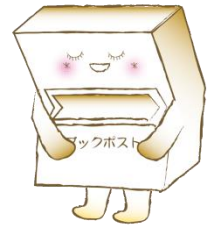
平成 18 年に普代小学校の PTA 文化部活動の一環として設立。以降、『読み聞かせをもっと地域の子ども達に気軽に笑って楽しんでもらいたい。』という思いで活動し、学校を会場に毎月読み聞かせ会を開催するほか、地域の方々による読み聞かせ会を企画し開催している。

また、普代村図書室においても読み聞かせや本の整備を手掛けており、読書活動推進において多大な貢献をしている。

編集後記

特集記事の執筆につきまして、お忙しい中、情報をご提供いただいた皆様へ御礼申し上げます。医学・病気・体調への人々の関心は高く、各図書館でも医療情報のレファレンスも多いかと存じます。そこでレフェラルサービスにも活かせるように、県内の医療系の図書館情報を取り上げました。公共図書館と専門図書館(今回は医療系)が今までより一歩進んだ連携が図れることを期待しております。

遅くなりましたが、滝沢市立湖山図書館の図書館紹介も掲載いたしました。周辺の道路整備も進んでおり、昨年9月に訪問した際にも絵本を選ぶ親子、窓際の席でゆったり読書をしたり、調べ物をされる方の姿を拝見しました。今年もオープン予定の図書館があり、お邪魔にならない様、取材にうかがえたら、と考えております。



[編集担当:岩手県立図書館 企画広報課]

岩手県立図書館報

としよかん いわて

No. 182

発行日 平成 30 年 3 月 31 日

編集・発行 岩手県立図書館